



色とりどりの衣装に身を包んで披露される「四阿屋神社の御田舞」

受け継がれる民俗芸能

市内で行われる個性豊かな民俗芸能は、時代にあわせた形で受け継がれており、地域の世代間交流を深める役割も果たしています。

●村田浮立【市重要無形民俗文化財】

豊年感謝・無病息災の芸能。二頭立てで舞う村田町の獅子舞と、大名行列の様式を残す江島町の行列浮立からなります。奉納場所は村田八幡神社～江島町石王社。



●藤木の獅子舞【市重要無形民俗文化財】

二頭立ての獅子舞が、童子の獅子つりにつられるようにして演舞を披露。次世代への継承の目的で、小学生によるポンテン踊りも行われます。奉納場所は藤木宝満神社。



●四阿屋神社の御田舞【県重要無形文化財】

田植えの諸作業を芸能化したもので、豊作を祈る『御田植祭』。早乙女姿の田童のあどけない仕草や鬼の勇壮な舞など、古式豊かな田植えの舞として貴重なものです。奉納場所は蔵上老松神社。

●曾根崎の獅子舞【市重要無形民俗文化財】

鉦・太鼓の演奏によって演じられる獅子舞と道囃子からなり、土地の悪霊を鎮め、人々を浄め、豊作を祈願する貴重な芸能です。奉納場所は曾根崎老松神社。



●宿の鉦浮立【市重要無形民俗文化財】

小頭、鉦打ち、大太鼓、小謡、踊り子からなり、鉦打ちは同じ大きさの鉦10個をそれぞれ1人ずつ持ち、打ちながら踊ります。奉納場所は宿町船底神社。



鳥栖のここが魅力 **4**
歴史・伝統

歴史・伝統に思いを馳せ、次代につなぐ



鳥栖市立Web博物館



つばしよ 勝尾城筑紫氏遺跡見学会で、葛籠城主郭から鳥栖市内を望む参加者たち



東西約2.5km、南北約2.0kmに及び勝尾城筑紫氏遺跡の全景俯瞰図

歴史をかたる史跡・文化財

●勝尾城筑紫氏遺跡【国史跡】

1586年の落城時の姿がそのまま残されており、戦国時代の山城や屋敷跡など城下町の姿を知る上で大変貴重な遺跡。石垣や土塁、堀などを見ることができます。所在地は牛原町、山浦町、河内町。



●田代太田古墳【国史跡】

約1450年前の古墳時代後期に築造された直径約42mの大型古墳。彩色壁画系装飾古墳として早くから知られており、1926年に国の史跡に指定されています。所在地は田代本町。



昔から人の行き来が盛んだった鳥栖市内には、今も多くの文化財が残っています。

●安永田遺跡出土 鎔范 一括【国重要文化財】

国史跡『安永田遺跡』から出土した銅鐸の鑄型片2個体分5点と、銅矛の鑄型片4個体分5点。九州にはないとされていた銅鐸の鑄型の発見は、教科書も書き換える発見とされ、大きな話題になりました。



●袖比本村遺跡墳墓出土品 一括【国重要文化財】

袖比本村遺跡の約2100年前(弥生時代中期)の甕棺墓から出土した、碧玉で飾った銅剣の鞘(赤漆玉鈿装鞘銅剣)と銅剣7本、青銅製の剣の柄頭の飾り2点。約1900年前の甕棺から出土した、鉄剣1本とガラス製勾玉です。

